

ひなの家押野通信第10号

「押野」の畑で6個収穫。猛暑で生育遅れる 甘いスイカに利用者が舌鼓



スイカを前に記念写真に納まる利用者の皆さん

ひなの家押野の畑でスイカ6個が収穫されました。猛暑が長く9月初めのおやつ時間に振る舞われ、利用者は大喜びでスイカをほお張っていました。スイカは春に苗を植え、今年の長梅雨で生長が遅れ、なかなか実がつかず、心配されていました。その後の猛暑で、小粒ながら実が育

ちました。この日、水分補給と利用者にスイカが出されました。「甘くておいしい」と評判は上々。割ったスイカを前にみんなで記念写真も撮りました。同じグループの「ひなの家彩」にもスイカをおすそ分けし、とても喜ばれました。

四季を撮る



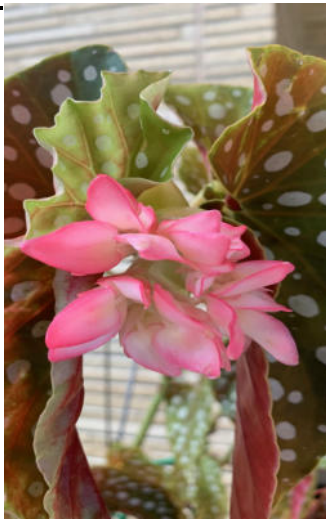
妖艶に咲く



ひなの家 押野

野々市市押野1-31
電話076(287)5810

ホームの玄関横で、夏からピンク色の花が咲き誇り、利用者を迎えています。「バゴニア・マキュラータ」と呼ばれる観葉植物。2017年に利用者の家族からプレゼントされました。花言葉は「恋わずらい」「苦い恋」。そういえば、そこはかたく妖艶さが漂います。



第2回多機能おしの俳句会
テーマ「アサガオ」

【俳句】
朝顔や 育てた想い きれいかな (知榮子)
朝顔や 心を込めて 咲いている (外喜子)
朝顔や 今日も元気だ 私あり (早苗)
朝顔や ビール呑めたら 目が覚めそう (美智子)
十二輪 君のいぬ間に 咲いた朝顔 (智未)

【短歌】
朝顔や 早寝早起き励むのは 今日美しく生きる顔 (耕二)
朝起きて パツと開いたその姿 夕にはしほみ 明日を待つ (利恵)
涼やかな色に誘われ眺むれば しばし忘る「コロナ」の災禍 (かず子)
凜として空を見上げるその姿 今日よりも明日と今を咲き誇る (かず子)

「押野」でも大輪を アサガオの種寄贈

利用者の西村外紀さんが自宅に咲いたアサガオの種を写真とひなの家押野に寄贈してくださいました。「アジックオーシャン」と呼ばれ、直径1.5cmの青と白の混ざった大輪をつける種(本紙第9号で紹介)。西村さんは「種がどれたので、来年はホームで育ててください」と話していました。

野々市市老人クラブから 古タオル200枚

野々市市老人クラブ連合会からひなの家押野に古タオル200枚を写真と寄贈していただきました。



実りの秋がやってきたー

利用者が旬の野菜を味わい、季節を感じる

ひなの家押野の利用者や近所の人から季節の野菜や収穫したばかりの稲束をいただきました。利用者は「実りの秋」を感じていました。

旬のスグリ菜に舌鼓

〇…野菜は利用者の畑でとれたスグリ菜。今年たくさん収穫できたそう
で、腕に抱えるほどいた



スグリ菜を水洗いする利用者



収穫したばかりの稲束

だきました。料理の経験が豊かな利用者が早速、調理場できぼぎと水洗い。スタッフがみそ汁の具やおひたしにし、昼食に出しました。利用者は旬の野菜をおいしそうにほお張っていました。

刈り取った稲飾る

〇…「利用者の方に季節

節を感じてほしい」と刈り取ったばかりの稲一束を近所の人を持参しました。フロアに飾り、利用者にも秋を感じてもらっています。ある利用者は「昔、農家で稲を刈った経験があるので、懐かしい。もうそんな時期ですか」と感慨深げでした。

スタッフ紹介 「元気いっぱい」⑩

介護士 浦上 豊成さん



「いつもにこやか」がモットー

がむしゃらに仕事に達成感

長く新聞記者をやっていた。60歳をすぎると断り切れない「優て、心機一転、何か別のことをしたい。そう思つて、初任者研修、実務者研修を取

得後、縁あつて昨年12月からこのホムで働いている。元来は怠け者。たは基礎知識にすぎず、わからないことだらけ。「先輩方に助けられ見よう見まねで、がむしゃらにやってきました。毎日忙しいが、達成感がある」。

当面の目標は介護福祉士。趣味は、若いころからやっていた将棋と、うまくならないゴルフ。少し前から韓流、トルコドラマにもはまっています。

メダカが登壇 利用者を楽しませます

ひなの家押野のフロアにメダカⅡ写真Ⅱが登壇し、利用者を楽しませています。

スタッフの橋谷美智子管理者が自宅で育てていたメダカが産んだ卵がかえつたので、持ち寄りしました。小さな水槽には10匹近



く泳いでいます。えさをやると、勢いよくとびつくなど食欲も旺盛です。

敬老の日にお祝い御膳

敬老の日の9月21日、昼食で利用者にお祝い御膳Ⅱ写真Ⅱが振る舞われました。茶碗蒸しがつくなどふだんよりちよつぷり豪華。利用者は大喜びでした。



◎編集後記

とうとう自分の番になりました。スタッフ紹介企画のこと。他人のことは書くことはできても、自分のこととなると、どうも書きにくい。あれやこれやと何回も書き直し、苦心の末の記事。これも人の一面にすぎません。これまで、その人をきちんとえがけたのか。反省しきりです。(浦上)